

### 就学前



#### 綾部市療育教室

綾部市療育教室は、週1回2時間、指導員が1対1で支援をする少人数クラスでの親子療育です。課題解決に向けて幼児の様子を保護者と話し合い、支援計画を作成して取り組んでいます。

療育では、事前に活動の流れや活動内容を伝えるときに写真を使用したり、体の動かし方を体得していくように遊具を組み合わせたり、言葉や数に興味を持って取り組めるように様々な教材を作成したりして、幼児に合わせて進めています。

就学に向けての「移行支援書」には幼児に有効であった支援方法や育ち等を記入します。保護者の方の希望により、就学前にこれまでを振り返って「相談支援ファイル」の記入をしています。保護者の伝えたいことや、通っている保育園・幼稚園・こども園・幼稚園での様子や成育の様子も記入します。

## 就学前から就労までの一貫した支援システム

### ～相談支援ファイルでつなぐ～

綾部市教育支援委員会



### 就労

#### 相談支援ファイル



子どもたちの発達の特性や保護者の皆さんの希望（教育的ニーズ）に応じた「教育的支援」を、乳幼児期から学校卒業まで一貫して行っていくための大切な情報を集めたファイルです。

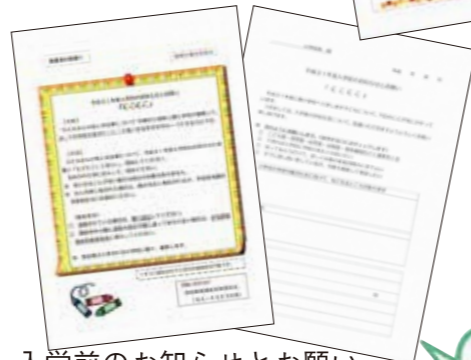
#### <綾部高等学校の例>

移行支援書を中学校から引き継ぎ、高等学校で3年間一生懸命学習しました。そして専門学校へ進学した生徒が今年3月で卒業します。高等学校で行った様々な手立てをノートに記入し、本人の苦しいことや得意なこと、保護者の意見なども書き添えて、進学先の学校に引き継ぎました。進学先でも内容を確認していただき、理解を得ることで、学校生活を円滑に過ごすことができました。このたび、無事就職も決定し、春から社会人として自立します。

保護者の願い  
園の先生の願い  
具体的な支援  
関係機関との  
連携など



移行支援書



入学前のお知らせとお願い  
「にここ」

入学前に  
先生と  
出会いたい  
知っている  
ほしい

小学校の  
学習や集団  
生活に向けて  
気になること

本人の思い  
・得意なこと  
・不安なことなど  
保護者の願い  
中学校での支援  
関係機関との連携  
など

### 特別支援学校

#### ●京都府立中丹支援学校

地域で生活し働く力を育むため、中学部や高等部の作業学習だけでなく、学校生活や教育活動全体にキャリア教育の視点を取り入れています。人と関わる、学ぶ・働く、地域で暮らす等6つの視点を「つきたい力」に位置付け、主体的な取組や「わかる、できる」等の満足感・達成感を大切に授業を通じてキャリア発達を促します。

地域とつながる学習では、働くイメージや関心・意欲を高めながら生活の幅を広げます。小・中学部では、店での調理体験、公共施設や作業所等での仕事体験・ボランティア体験・出張掃除、作品展での接客や広報活動、地域の方に学ぶ生ゴミリサイクル活動を通じた環境学習等、様々に取り組んできました。

高等部では、校外での就業体験・職場実習・企業見学、製品販売会、地元農家との交流や体験、企業のプロに学ぶ清掃研修と施設での実習等も行ってきました。今後も、小中高12年間をつなぐ教育の積み重ねの中で、豊かな人生の基礎を培うことを大切にしていきます。

### 小学校

#### <特別支援学級での支援例>

形の理解に弱さがあり、漢字を覚えることが苦手な児童には、形の特徴を強調して伝えたり、絵に字を重ねた漢字カードを使ったりして、イメージを伴って覚えるような支援を工夫しています。



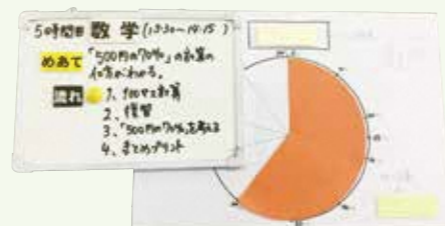
通級指導教室  
(ことばの教室)

ことば、対人関係  
社会性など  
学習上、生活上の  
困難さの軽減・  
克服を図ります

### 中学校

#### <特別支援学級での支援例>

視覚が優位な生徒には必ず視覚教材を作成し、理解を促しています。また、授業の見通しが持てるよう、毎時間ホワイトボードに時間やめあて、流れを明記し、目の届く位置に置いています。



通級指導教室  
(サポート教室)

### 高等学校

#### ●京都府立綾部高等学校

学校適応会議を開き、生徒の様子を交流し支援の方法を検討・共通理解しています。ノートが書きにくそうな生徒にはノートに升目を作ったり、全体説明だけでは分かりにくい生徒には個別説明をしたりしています。